# 八笑人四編追加

村山

下

へ13
3209
11

村田

# 花暦八笑人四編追加下之巻

江戸　童戯人　瀧亭鯉丈著

備其日をそなへとして。質兵衛八早朝飯こく矢崎を持。毎日鱠吉に素るゆゑ。もたれふよりけ五どつひ日數つのきべ少し人形も出来こく。あくまつ人こぢり付く。ちうに成り。桃へ置し諸反具をども紙そろひ。も崎日よ。しくべ日産をこの。諸色をり産かよく仕組し

門へ13
號3209
巻11
昭和十年七月五日購求

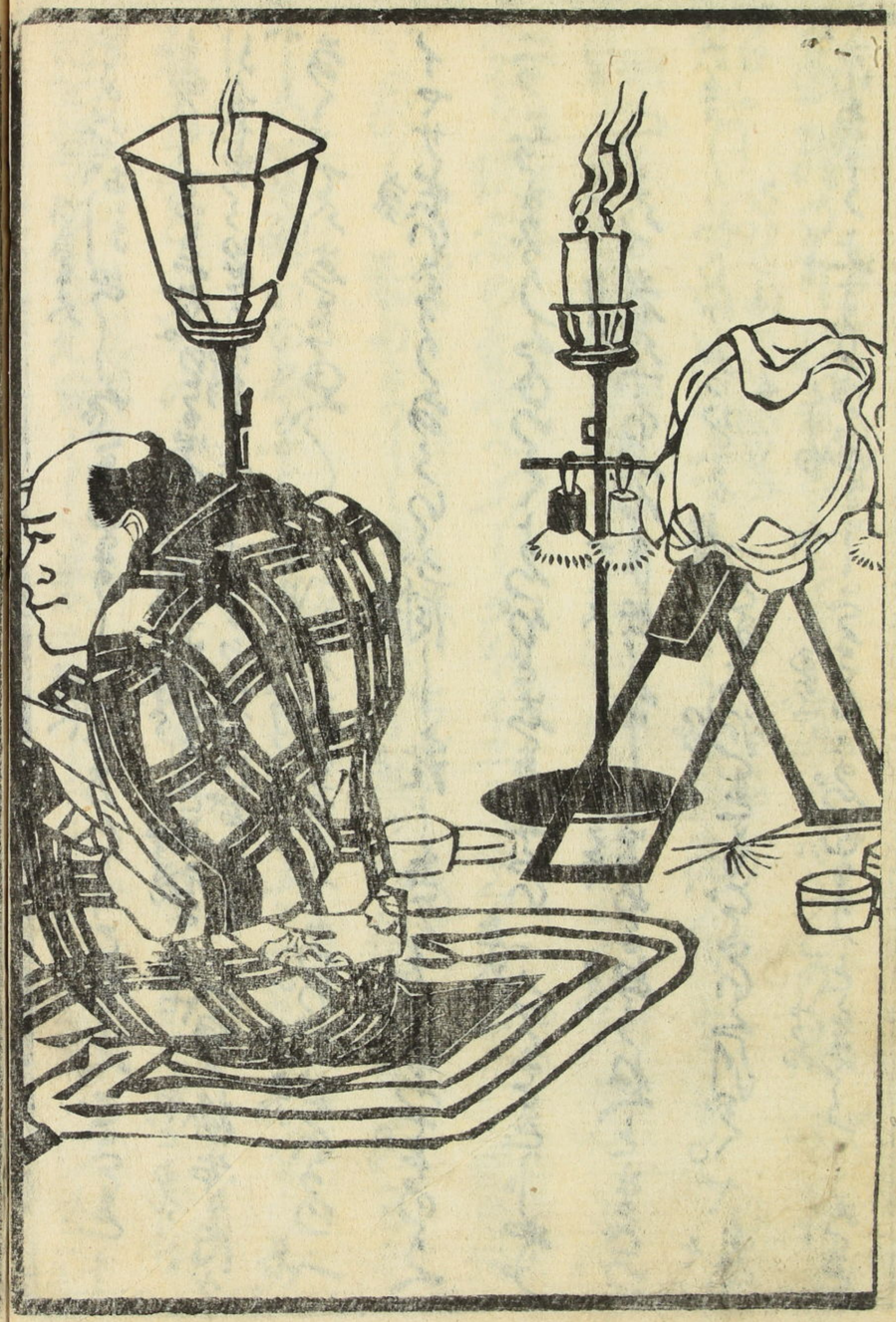
チョボ語りの文句を同座し。贊沢が禁内るく。かの
御下館へ行る。化粧知人の所人逃〳〵つゞき来く
皆々ま〳〵ま休息新屋仰付る。八人の藤忽着も
いつら〳〵後者の者新屋へ入り休息する〳〵
うんと左次さん。このそう座敷いお座〳〵きゞのう。まづ茶
屋を始のくらう。元小屋里も歩行さやうゞ。酒りま屋
ゞ初まやうゞ〳〵そう上。迷るれでも行くくまゞよりゞ
後〳〵イエ〳〵この義ハけしてあんゞ〳〵ありまゝ。

相すまうく。おのゝ文句出ますまゞ。お殺人掛ゞ文お殺
ゞ〳〵く。出業用のお人をとゞさまゞ。しのお口まゞを出
らまゝ。ハア相違ハゞりません左〳〵ハア左やうゞ。そまゞ
あんん。安ゞナアアバ公ゞ中のゞ知ゞ状ひもゞ。扨ゞ業番連
ゞ又化粧屋生湯のゝのゝ殺者の系持の湯
かの備屋をもりもあるゞ。のまゞ紙屋とゞ屋〳〵ゞ殺の外の
用業をゞ〳〵のまゞ〳〵ゞ〳〵ゞ〳〵

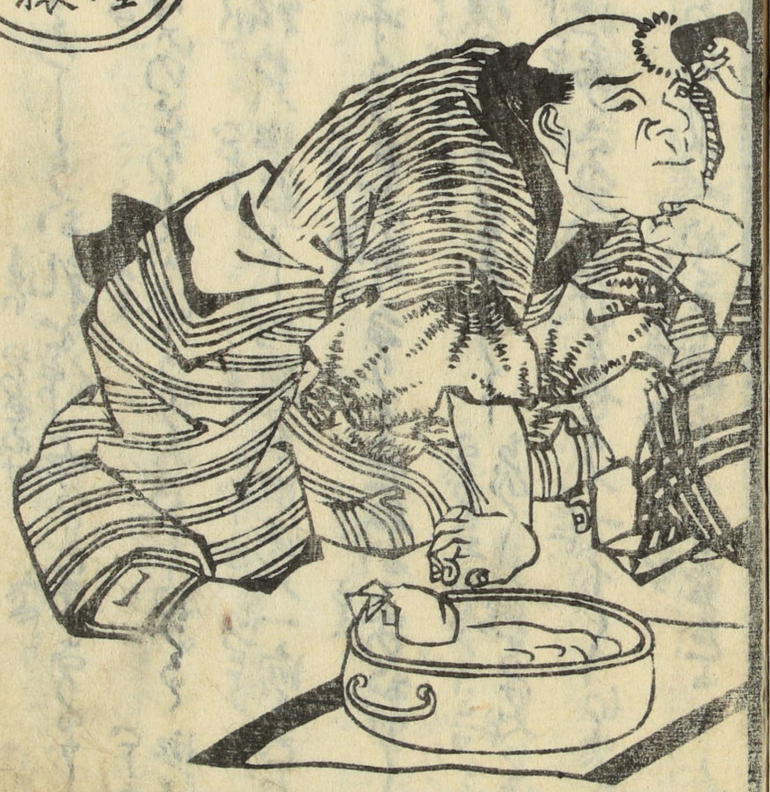
若ハ今日ハ若殿上にも殿の御ふの〜
〜〜〜。何よ質素ぢの。お樂屋〜〜がの幕
〜〜〜〜。ちと門と業内ぢて。
のの〜〜〜〜。有ぢの社会せ。
内ぢ〜〜〜。左ニ帰ぢる。
〜〜〜〜〜〜〜。
ぢの〜〜〜〜〜〜〜

[illegible]。弾の外猪[illegible]。[illegible]。この間お上へよろしう。由拔[illegible]。

[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。イエ[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。



素人戲場元是嵯
姿容翩々面似猿



笑　ヘイ〳〵　是ハまことにようがゝ丈夫ありがゝい仕合せ。ぜひ
ゝりさまのごゝ御上へよろしくお礼を仰上られさうゝ
左様ゝゝ結さま御新人のとゝりお上ようりでゝ〳〵もうて出掛。
ありがゝ　是ハいろ〳〵で。ヱ私共出家ゞの通り出掛一向よゝぶ
でゝうわうでゝぶりまする方ハ外ありませぬお上のまゝ
わ〳〵四名ハ重に一ツ項戴仕りませうト　こゝ〳〵と二つ三ツけ
笑　ヱ　是ハ左様ゝ　左ハ　ヘイ〳〵いでゝ
ませう。ヘイとゝまゝ〳〵ものゝ御下〳〵ゝ

あるゝ仕合せ。お河豆ゝよ項戴仕りました。ゝ〳〵ゝ
のゝさまゝよゝ何角出多用に〳〵ゝ〳〵ゝ。ぜひ〳〵ぞ
是〳〵ハ是ゝ〳〵ゝ。ゝ〳〵ゝ　後　高く松こく
ゝゝゝ仕のゝの祝是〳〵ハ是ゝ〳〵ゝ沢山
ゝゝ〳〵ゝ。何度よりぎゝ〳〵ゝ。
者〳〵中受けゝ。ヱ屋敷の料理ハ是ゝ〳〵ゝ合
笑　ヘイ〳〵　出勤仲ゝ結構よいでゝ
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ。ヱ〳〵ゝ

ちゃうどうさまもせん　左二　ハ〜〜〜

ごく〳〵と、さうしの人をうつ〳〵
ふをうちもらしひ
左ニ モシ質屋さんは
おわかん者せえ 俗ハイ〳〵と、負惜どあるくくもうとうぬ者ポアバ
ごく 笑へ〳〵。ココ見ハ。
りのこ
左ニ ものも〳〵そもそもごく おもうく 義義〳〵 ナナ。 ポプフ
づめ者せえ 座敷が 痛まで 幕ハ 泥のへと〳〵。
おのもと 義義 物の 弁 勘平ぶ 四つ。
ねんじ者。 三人もけ
ちつと 病閑〳〵べエ。 屋〳〵 弥 弟ハ 武
接へ 武ぶるとも 傍 にするぶり。 河
質屋さん。 おころうしろくぶ 俗ハイ ぶ。
よろ〳〵。 絵のぶう 書ぶ
も 止りもう〳〵 左ニ ハ〳〵ぶう も 山 ぶ
う。 ぶ 子 ぶ。 大 ま ぶ。 出 ぶ
ぶ。 そ て 今 出 の 河 の 平 人 の 家 を
て。 ぶん者 く 出 人 に の ま 表 ま ぶ
いや〳〵。 そう者 や〳〵 俗ハイ〳〵。 モウ 絵の 勘 書 ぶ

ドロンドン

「コレサ。そうびてくれ。」

とりつく「下幕毎よりやまろう。」

「ヘイ〳〵」

いつまでもおのてへわろうと見物人

ぞろぞろいてまいりませぬが。

「ヤアヤ〳〵」

「あんべえがよくば。」

「上手。」

紙をとりこそぐ〳〵とあるまと

いてをとくちゃんとをとるのそある

「ハア見ハ数見物人をるる

おようぶとあんまりお先根がれ

一ッぽんかとうとトきのそ

「イヤ〳〵」

ぞうぞ面ハ此

見物人をくてごさるのまで。

ろんの面与一三郎の役よ。面ゴをろへ

「お願ませ」

「掛まー」

「ハ」

「ハ」

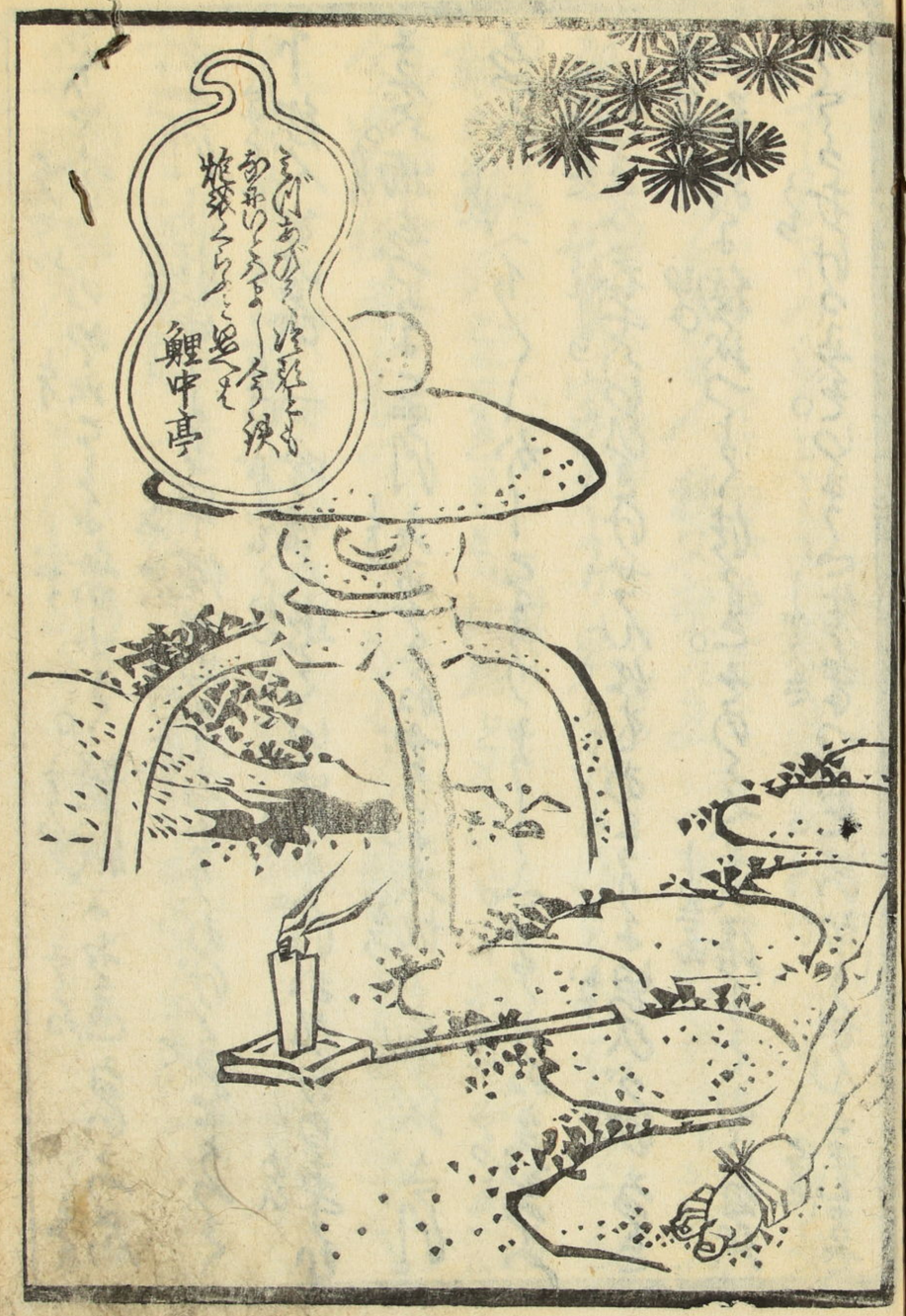
「ハ

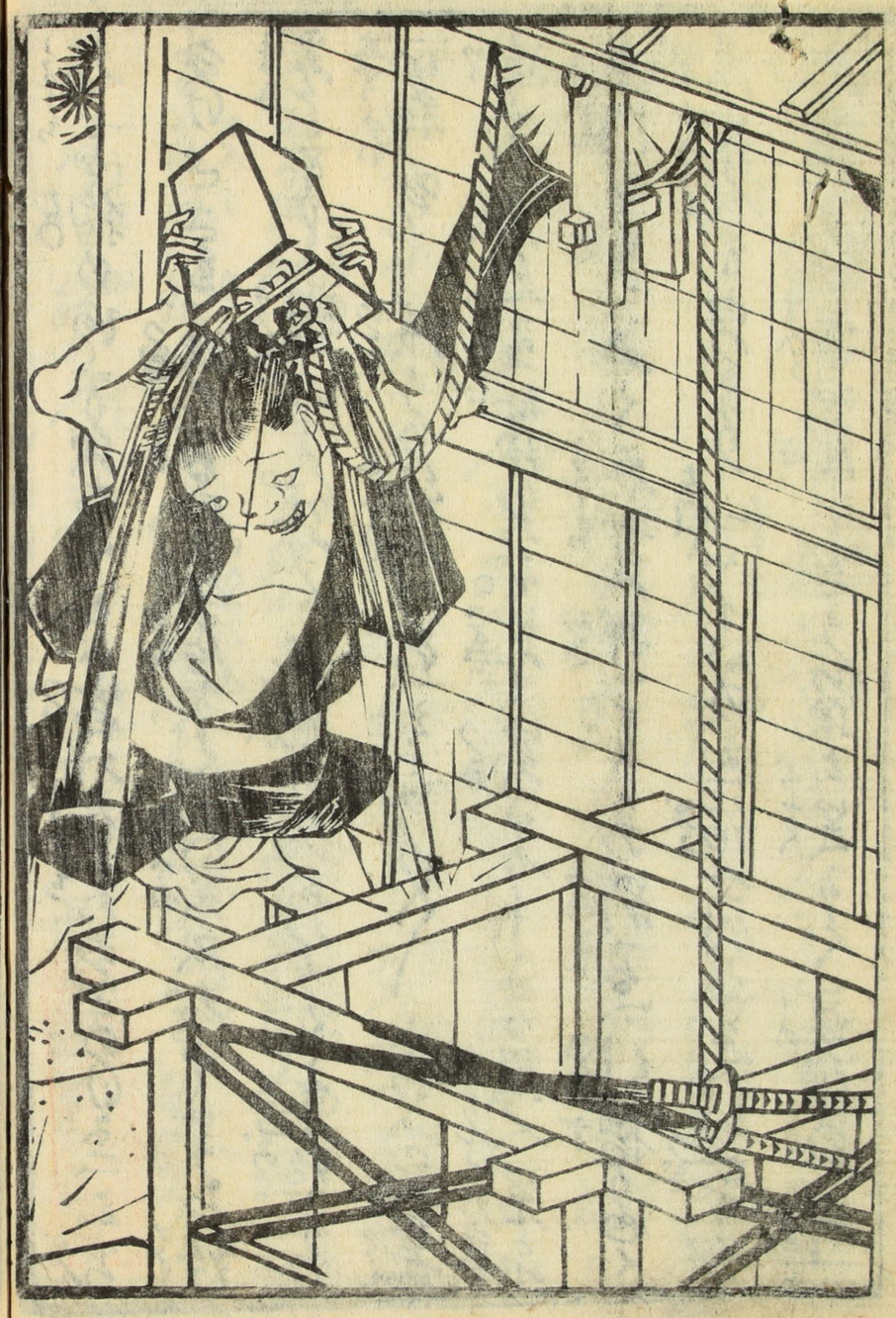
始りて。まづ花道より出て。道行。おそれ入のよし。お供員と云
出る。跡よりのりの人。大屋具を持付。小屋を積る。
家来〳〵。出る。チョボ始りて。家来より左二番へ梅の木紙
持て。うへ番屋。番とる。楽屋より。初〳〵せの木紙へすべる
アヽもと出る。踏る三人。雛子〳〵。出る。出員。勘平の拵。
しろめ。ぬりて。松蔭よりなる。呑七人。踊る。番の拵〳〵
ちく向へまはる。楽屋。其幕毎に連中へ。始りて〳〵
他人。多拍人。すこしも。〳〵。こへ。屋敷。始りハ

よう。扨上ハ。バチョン〳〵〳〵ト幕。ゆく。座敷
〳〵。高くも。穂ハ。まだ。ぬ。月や。どん〳〵
座敷。あつく〳〵。そまるを。見て。松の蔭。向へ。ゆ。
桃灯。こまも。黄ハ。ゆ。張の。とり。大消。ゆ。と。
の。始ハ。大。両紙。高ぐ。いそぐ。歌の屋ト。胴のチョボ。まぐ。張
まど。泳。弟。出。ざま。宮。紙。ふ。あ。ん。と。座。て。ハ。ゆ。ぬ
出。て。ぬ。紙。始。ま。ば。出。員。助。も。い。ろ。く。ば。入。し。く。つ。る。げ。ど
一向。出。ゆ。も。て。ろ。う。先。刃。殺。人。の。兼。用。く。切。幕。一。ゆ。る

間五郎承知し、ぶり。例のつよのこまあみるく曲り面紙遠
し、ゆるゆけどもく、切幕へ出ぶ。どんく、あるみょうき
知ハせきいぶんせんと、えのがせ。ぶんくと奥浦くゆく祖よ
明発姿だりゆゑ。人よ、ぶひんゆもせんこのゆ。がうぜんと
えてるが。ちろう左りのくこくく。楽屋ろく、すつ爾のあわし
きこゆる成ゆ。一下ろ成ぶこうと明ゆ。問よ徒行ゆ
しる三流の殺人三ゆ人。若人宮屋く。吾七成ろく、ゆ門ろう
さこぶハメり殺の人とうえ。ろう成刀よ三あぶり。物をもいぶ

吾七ゆ狗のひろう成ゆてうよ家ハ吾七ゆゆもとのゆ二二ゆ
ぶげぶさこ。次のろの姿居ろく。天家成ゆてうちち神
出ことろよ番ぶ、ハぶくへろ花ちり。あぶろく音絶して
四幕ゆ。残りの殺人ハ只「ミイツ〳〵」トいろの。嵐
近くとうえ三成ゆ家ぶ。先ま家ろ、ゆる殺人若ゆ
左門七ゆ花く吾七成押へ。ちろの別ろ引摺りゆく
知殺人もあるり「ヤイ」の主伯や門ゆ主ハ。
尾張の振舞ゆ発し、きうち成ち出ちく。あびの 神。


鯉中亭



コリヤ今晩のあれこそ業じく。盗賊よおまつ。ちいふ屆
おやかト懐中より罕縄を出し。ちぎりあげ。色をうつく
下殺人を呼び。奇吟味に逆くいて居。まげおひけの事も
まぞ。物ごつよ。元あぐこれやうよ。大切よ番紙ちか
ちやの下殺へイ〳〵かゝ。こまりきゝ。サアうね立ちよ
ト引ちる。春さらひとのせんにも。あをうよ男ぐけ。あき
ちのうん。と笑。強よ物成つよく。はこまる。そのうく。業居うくあうる成
ちくこうちけるあぞ。ひまぐ生まつぞ。ぐはうせんと。見まぐ

引ずこまう。うとりとしく。刺もいぐ。殺人のうちよりが
やうぎこる人。秩父郡。岩永どの。チトおひく
ちこまこ。ちの家ちのよう。見分いこ。ちこまうぐ。ちう
輪の粋。こぐこまぐ。地獄ども。いく〳〵。おうこ。第一
今晩の殺者どものうちうもこうり。強うぐる。コリヤく
こまこのりや殺者よ。ちこまこのぐ。ちのこトこの者。まく
まこ〳〵。西吉。右下殺へイ〳〵。殺者ぐこぐりまこ。右下
イヤ。殺人こうりぐ〳〵。と。山方で殺者こと。せこむ。ちぐよ

この屋ようつく。ヘイ殺者じゃとカーあるコリヤヤイ此方ども
いろ不在勘めぐく芝居るどもあど不埒良じゃとそ。おの色
がやう方人とうもあい面の殺者ぶ見うと見りやうろ。
すいあうもちまくみろ。イヤ殺又後こまく今晩の
お狂言は付き。入りこむや門四名ごとあぶらハーう出
こちあつくそぐる。コリヤかやうな不埒なみろ
うと上屋敷よりつまく諸人お見物見物後冷
味いくとトいつまく一坊主二人お侍方きまりみきう
岩永さまく。この

者人共今お義意。まりとそるとろ。延引いく諸の
外芝居。一同迷惑仕りまく。諸方お尋ま
ありまくの。何ら不調法の段を遂くの出所に共今芝
かり御舞意の自然遂いくまく。上の出不興の
御もりぐまづく拙者ども。あぐろくあづけもとり生
トはくよりびけまく。主殺人も先刻より。吾七がそぐり相
遂もあるまづくと。知へつけど。おまりあひぐくあ粗
思すくまもるーるろ。いくぜんとあーひー好あまく

ばかりとなり、フシぎ貴公達へまうせやうが
仮茅ぶうる出来ちく〳〵。その合ないてをぬやうな心付け
さつしやいト見とゝのふ縄とゆる。主殺人ぶ立く奥へ
指る。又若もの殺人をすぐく狂言あどよかゝる能楽人
をどゝろ。仰ちゝくしゝ。楽屋のぞきをあぐる人物
まゝあるものゝまより呑七歳ゆうし。主殺
人殺さつしをどゝ者ぐゝ。義経ときゆよ家ゆう
きこうがゆねゝく。仲ケ間の兄が弟の外人紀の稽古しゝ

まゝづちゝをもゝやく出さつしやいつゝ〳〵トせりゝをゝ呑
七歳ゆで兄のゆが世。義のゆうゝく何の男義も者。若侍の云
ゝまゝゆ。幕狂きゝゝせる。備又家義ゝゝ。チヨボ語りもい
ゝく〳〵出ゝゝめの浄ゝりをゝゝり。のゝやゝき河ゝと何と
ゆゝゝく多滝弦楽。チ〳〵チンチンゝく〳〵をどゝ仮出ゝく
ゝをゝもすゝゝも出ゝ。出目助も何ゝをどゝゝ付あど
ゝく〳〵住ゝゝせんゝゝうきゝく座ゝそ〳〵さゝぐゝと勤手ハ
狂言をさ巳で源りゝく〳〵トゝ出ゝりゝをゝゝゝぐ出目助も是

さいとの何のまつぐ〳〵うつ。花屋へそのゆ屋へ。
〳〵又もふりうる雨の三人の三番ぐ〳〵と。屋へ関始まる。
ゆ屋ぐ〳〵ぐ〳〵の中をにつく樽。すぐ有る仏の三番ぐトこの清
ろう狂ゆ賢三番ぐこの一ッ仏ゆうく出ぐ〳〵ゆ有ぐ。
よき狂は切幕より出ぐん〳〵番番の〳〵あの仏。屋
ゆく〳〵〳〵一下筋乃のうちゆうトゆ番ど又定九郎
ゆぐ。又も一同は三番狂ゆ。左二郎ゆ〳〵ゆ〳〵向の
とまうのきゆぐ〳〵〳〵わせるさゆ〳〵切幕の者チヤリ〳〵と

ゆく〳〵ゆ。うき〳〵や宝水郎と思ひの外吾七若侍させ
きゆ〳〵〳〵。のそりと出る形を見ぐ。拍子も並もゆく。
神出鬼ぐ〳〵の蔭ゆるもゆ〳〵ぐ。がうぜんと出る狂番
番ゆう〳〵ゆ〳〵見付ケ。ぐゆ〳〵〳〵〳〵後見難るも一同
三番狂わせゆ。番番ゆりる出ゆく。あゆぐゆきとゆ
ゆるもゆゆり又〳〵〳〵〳〵〳〵楽屋へきとゆゆくも
ゆゆ。吾七ゆうつのごく。泥ゆ砕ける紺のごゆ〳〵。先刻より
〳〵〳〵〳〵〳〵

[illegible]中の見物、[illegible]節句の外。[illegible]
[illegible]氏[illegible]。一同[illegible]。御前も[illegible]
[illegible]物[illegible]。[illegible]吞七[illegible]
[illegible]与一[illegible]が[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]が[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

[illegible]
[illegible]。[illegible]吞七[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。

ゝ蔵へ能あり。大小共拵く井の端へ長き傘共
ちきさまく作るべと約上ケ天窓より二ハ盃さゝ〳〵と
あびるうちよ。詠み手勘平の出合も多く。勘平ハ間ぬの
に引込〳〵ゞ。男〳〵能より与一兵衛の出よく有るう
常蔵のうさうく一トすぢ石のうしろよりト幽霊斎
よりどうきハットうろ〳〵井戸端へヲイ〳〵トいひ
あゞ〳〵。傘共ちゝ〳〵けのまく長屋も多く産業へ
とゝ上り幕共沼之丞 腰ヲイ〳〵親父ゝト出るあゞ

貸〳〵家八宅九軒ゞ有り出来〳〵ゝとけぞん〳〵ゝ
ゝゞ。楽屋のものゝ〳〵まりかゞ。吾七をひつさく有業らぞ
ゲ下ゝ引ずり込ム。そのさゝ二ツ河ゝくトンチキを引出
拵ゝ。おゝ宅九軒与一兵衛ゝ人と有り。やうく〳〵すこし
ゞ見ゝ〳〵くゝ。貸〳〵家八アちゞゝ笑ゝ〳〵ゆゝ。仕
おゝ〳〵くゝとも約束のきろうゞ。ぜりふまでもろちゞひ
ゝゞ可有り。ト狂言ゆきゝ〳〵りしゞらろく〳〵 眼七
ゝ拵ゝらやゝゝゝ多ゝゝらゞ付よりのゝゝゝゝ

親父め。サアく〳〵ろく今戎出さねとゆうしやア。コレニハ
尺八すト鐵戒アんまで。このぜん家ゆ名ゆ成あびの河井筒のうちく
大ゆ式ゆ。そのまうろうゆ出ー出ー出。大ゆ式ゆ。ー今さう丸
ごーよ。ハツト思どせんうまく。うーろよ付をを打く
みる幸八。おい麥まく。麻の井筒ホ大小がみうろう。ゆく
まく〳〵トゆも与一ゆ出ゆ。テラく〳〵と
ゆの表ゆ。ゆ表ゆ。幸八上〳〵何ごと。エエ。ト一向ゆりかゆる。服
七ゆ表ゆ。ヤイ親父め。此愛人此すの

傘ゆ後ゆ。ゆ。ゆ。

たきよ。ぶまこと。服エ。そのワガ極ぐらのてぶ。ゆんまり
まがきろ。ゆんぐもいろ。ダアとえまま。ゆまよ。エく
ぶきようあトをづゆ。貨ぶ。ぶ。ぶ。

おくれて唐茄子屋政談。化さまの住うち。十分よやる
上裏へ出て我身かるとも。あらぢ三さるうらら。
ちんぢんぢる自慢。猪デンテレックツテンく〜ト
敬まつる。弦武六八縫ぐるこの狐。ヒヨイと出彼かし
そうなり。約束の通り。猪の思入。うしろハ化物めきたる
鳴物うく。宝九郎とのうしこの立場ハ
かるり見物も笑ふ。ものもの。友人もぐ〜と出ぎよ
ぎり。弦武六八ちきりよぐく。飛ちのまぢ。うしろぐく



ぎの焼耐火へ突わう。ちりくるこのく火うりく一度
ちりとのえ〜そぢ。「ワツトおどろき業山の義捨んと
するど。縄ぐ自ぢへうく。下手の縫ぐるこ
も焼付くぞ。一生無命よかぢりちりく毒の付きぞ。
服七ぐ彩へ打付る。ちりく後まぐ物傷する。後見雑
ちりの出。ちく〜と演ぢ服七ちりぢ大声よ。
服七 アツ〜〜トのぢ弦武六八ちそくる「コヲン」「アツ〜〜
ロヲント出る〜ぐりの思ひ付成ちりよ左次郎ハ

柳樽末。チョンノ〳〵ト幕終り

相変らずぞろくどりけるど。大序より十一段の内大段

目録おもしろき幕八ツ〳〵。弾の外出ようの人出機

種よろしく。出賞美あつく出酒あどりさまあやまち

の言名ろく。今まも首尾よく帰宅る

八笑人四編追加下之巻終


江戸 文客 滝亭鯉丈著編

仝 画工 歌川國直戯画

花暦八笑人五編 二冊 草稿出来あり引つゞき彫刻出板いたす

天保五甲午年孟春開販

西村屋與八

江戸書房 大嶋屋傳右衛門